

木更津市市民活動支援センター運営協議会第1回協議会 議事録

○開催日時：平成29年6月29日（木）午後6時30分から午後8時まで

○開催場所：木更津市市民活動支援センター

○出席者氏名

協議会委員：白石哲也、湯谷賢太郎、平野秀樹、川口正彦、鶴岡英樹
丸尾進三郎、長谷川圭亮、池田博和、佐藤恵美子、加納基成

指定管理者：川出信治、原田享、児玉将

木更津市：高浦浩、石井彰一、大岩房之、北見寛之、芝田雅人、今野涼平

【市民活動支援課：石井課長】

それでは、定刻となりましたので、木更津市市民活動支援センター運営協議会第1回協議会を開催させていただきます。はじめに高浦市民部長より挨拶をさせていただきます。高浦市民部長よろしくお願いたします。

— 高浦市民部長挨拶 —

【市民活動支援課：石井課長】

ありがとうございました。つづきまして、市民活動支援センター運営協議会の設立の概要について説明させていただきます。木更津市市民活動支援センターは、平成27年10月に開館し、その後、1年半の期間を市の直営によって運営を行ってきましたが、平成29年4月1日より指定管理者制度を導入し、管理運営を指定管理者が行っております。指定管理者は民間のノウハウを活かし、施設の利便性の向上に努めるとともに、自主事業等を展開しているところでございますが、指定管理者に対し行政からの意見だけではなく、実際の利用者からの意見や、有識者の方からの専門的な意見を頂戴することによって、市民活動支援センターの更なる利便性の向上と、市民活動の支援及び促進を目的とし、この度、木更津市市民活動支援センターの設置及び管理に関する条例第28条に基づき、運営協議会を設置いたしました。各委員の皆様からは忌憚のない意見を頂戴するとともに、市民活動の支援又は促進について、調査・審議を行なってまいりたいと考えております。協議会の設立の概要については、以上でございます。つづきまして、今回、第一回目ということですので、議事に入る前に、委員の自己紹介をお願いしたいと思います。ご自身のPRでも結構です。どのような市民活動をされているのか、また、市民活動への想いなど、どのようなことでも結構です。それでは各委員お願いたします。

— 各委員自己紹介 —

【市民活動支援課：石井課長】

各委員、ありがとうございました。続きまして、木更津市市民活動支援センター管理運営規則第16条に基づき、会長及び副会長を委員の互選により選任することとなっておりますが、どなたか推薦等がありますでしょうか。

【委員一同】

事務局一任でお願いします。

【市民活動支援課：石井課長】

それでは、事務局一任という声がありましたので、会長を白石委員、副会長を湯谷委員にお願いしたいと思いますが、両委員お引き受けいただけますでしょうか。

【白石委員、湯谷委員】

お引き受けいたします。

【市民活動支援課：石井課長】

ありがとうございます。それでは、白石会長、湯谷副会長、ご挨拶をお願いいたします。

— 白石会長、湯谷副会長挨拶 —

【市民活動支援課：石井課長】

ありがとうございます。それでは、議事進行につきましては、市民活動支援センター管理運営規則第17条に基づき、会長に議長をお願いいたします。

【白石会長】

それでは、着座のまま進行させていただきます。指定管理期間の計画について、指定管理者の三幸株式会社様からご説明をお願いいたします。

【三幸株式会社：川出副支店長】

この、4月より指定管理者として運営を開始させていただきました、三幸株式会社と申します。よろしく願いいたします。

市民活動支援センターの運営方針をご説明させていただく前に、簡単に弊社

のご説明をさせていただきます。弊社は創業から63年をむかえます、施設総合管理会社でございます。近隣の施設の管理実績でございますが、君津市の内箕輪運動公園の管理運営をおこなっております。市民活動支援センターの運営方針については、センター長であります、原田よりご説明させていただきます。

【三幸株式会社：原田センター長】

当社の運営方針として、「つなげる」を基本コンセプトに管理運営を行ってまいります。「つなげる」とは、市民と市民活動支援センターをつなげること、市民と市民活動団体をつなげること、市民活動団体同士をつなげることとなります。そして、それらの機能が本施設で担えるようになりますと、木更津市の市民活動の普及、活性化につながると考えております。このコンセプトをもとに、3年間の指定管理業務を行ってまいります。実際の管理運営の内容といたしまして、初年度は市民と施設をつなぐことでございます。本施設は開設されてから、まだ日が浅い為、認知度はそこまで高くないとも思われます。このことから、市民の方々に本施設の取組を知っていただくための取組、施設に賑わいをつくる取組、施設に足を運んで頂けるための取組を主に行ってまいります。施設を知っていただくための取組として、ホームページ・SNSの活用、広報誌の発行、まちなか（公共施設等）への営業を行います。施設に賑わいと作る取組として、みらいカフェの実施。これは、コーヒーマシンの設置や物品の販売、四季の展示等を行っております。施設に足を運んでいただく取組として、自主事業として「ヨガ教室」「健康ストレッチ教室」「ベビーヨガ教室」などの様々な自主事業を行ってまいります。次に2年目の取組は市民活動へのきっかけ作りでございます。「つなげる」をコンセプトに、市民と市民活動団体をつなげ、よりよい市民活動を生み出すものです。そこで、市民活動を生み出す取組として、「市民ボランティア講座」。こちらは市民の方が講師となり、その講座に興味のある市民が参加する講座を想定しております。また、来館された方々に施設に興味をもつていただくために、市民活動団体の活動交流掲示板、イベントカレンダーを設置いたします。そして、3年目の取組として、活動と活動をつなげる取組でございます。木更津市で行っている地域課題の解決のため、団体同士の活動、団体に所属していない様々な機関の活動をつなげ、連携することによって、今までは解決しえなかった課題にも対処していけるものと考えております。

この事業プランについては、あくまでの現段階におけるプランであり、市民活動の変化や市民活動団体の進化に対応していくなかで変更させていただく可能性もございます。三幸株式会社も柔軟な姿勢と企画力・行動力によって、対応してまいりますので、よろしく願いいたします。

質疑応答：

【川口委員】

将来に向けて、しっかりとした計画を立てているという印象を得た。このセンターが核となって、地域の課題の発掘と市民活動をそれにマッチングさせた、迅速な計画を策定して欲しい。

【長谷川委員】

利用に当たっては、居心地よく使わせていただいている。強いてあげると、このセンターは、駅から近いが、それにもかかわらず、場所がわかりづらいので何か目印になるものを用意してみてもどうか。

【加納委員】

私も、利用に当たっては使いやすい施設だと思うが、一般的な市民活動支援センターと比較してみると、印刷にコストがかかる。

【湯谷副会長】

こちらには車で来る人が多いと思うので、駐車場がもっと使い勝手が良いとありがたい。センターとして、どの程度営業をかけているのかが知りたい。

【三幸株式会社：原田センター長】

社会福祉協議会、中央公民館、学校等の教育機関など現在は主に公的機関に営業をかけている。今後においては、関係機関同士の横のつながりを意識した働きかけを考えている。

【湯谷副会長】

木更津市は、公民館活動が盛んである。個々の公民館だけで活動するのではなく、公民館同士の横のつながりを大切にするよう働きかけ、協働して活動できるように働きかけをしたら良いのではないか。このセンターも単体であるのではなくて、周りのそういった機関とのつながりを意識して運営されてみてはどうか。

【佐藤委員】

自主事業について、子育て世代向けだったり、子ども向けの事業が多く見られるが、この先を考えると高齢者のことを視野に入れる必要が出てくると思う。その点、高齢者向けの事業を展開していく予定はあるか。

【三幸株式会社：児玉氏】

色々な年齢層に対応した様々な事業を弊社で考えている。高齢者向けの事業としては、「健康ストレッチ教室」があげられるが、特定のターゲットを絞らず、色々な方が参加できるようなイベント、例えば花火大会の翌日に行われる「みなとまちゴミ拾い」等も企画している。このような自主事業は、われわれが単独で進めていってしまっているが、いずれはそういった事業の中に登録団体が入ってくるような形にしていきたいと考えている。「子育て談話会」といった事業もそのような観点で企画した例である。

【川口委員】

自主事業についてであるが、この自主事業に多くの方が参加してもらうことによって、このセンターのことをよく知ってもらうことに狙いがあるのか、そもそも自主事業をする意義はどこにあるのか。市民と施設を結ぶきっかけ作りが目的であればそれをしっかり考えておかなければならないのではないかな。そうでないと、公民館と同様な施設となってしまうのではないかな。

【市民活動支援課：大岩副主幹】

自主事業については、今年度より指定管理者を置いているということで、このことのPRの場として行っており、今回、指定管理の指定条件の中に入れさせてもらっている。確かに、公民館と同じような事業になっているが、まずは来ていただいて使ってもらおうということが主眼で今回自主事業として提案してもらっている。

【川口委員】

そういう意味であるなら、その目的でやっていただきたい。

【白石会長】

こういった自主事業は、指定管理者が運営主体となってしまうのか。

【三幸株式会社：川出副支店長】

はい。

【白石会長】

では、他の団体や登録団体が何か行う事業はどれくらいあるのか。

【三幸株式会社：原田センター長】

ここの施設で何かワークショップを行なったりするのは、月に5, 6回ほどである。他にも使いたいという団体があるので、そういった相談に乗っている。

【白石会長】

今後、この施設を多く利用して欲しいと思うので、使用頻度を上げてもらえるよう期待している。

【川口委員】

ホームページを拝見して、会議室の使用状況（有料による賃貸か無料によるのかということも含めて）の確認がわかりづらいので、改善して欲しい。情報をどれだけ開示するかという問題もあるが、ある程度はわかりやすく会議室の使用目的を示して欲しい。

【三幸株式会社：原田センター長】

ホームページでは、第1会議室、第2会議室としか示していないが、登録団体名と何の会議をするのかということを任意であるが記入してもらうようにする。

【川口委員】

とにかく、会議室の使用がわからないと、市民活動の目的で使用されていないのではないかと他の市民から誤解を招いてしまうおそれがあるので、どのような市民活動の目的で使用されているのかということがわかるようにしておく必要がある。

【長谷川委員】

私達団体側として、指定管理者である三幸や市役所市民活動支援課へ質問したりするが、内容によってどちらに質問をしたら良いのかわからないことがある。その点、三幸の方でこういう内容だったら聞いて欲しいということがあったら教えて欲しい。

【三幸株式会社：児玉氏】

弊社がこの指定管理者として決まった時から、全ての従業員が市民活動に関する相談をしていくということになる。これまで、このような市民活動支援センターでの実績はないが、公民館や文化系の施設やスポーツ施設の管理・運営をしてきたという実績はある。センター長をはじめ、従業員は、これから色々な経験を積み、市民活動に関する相談を受けて考えて行くことで成長していきたい。

全ての相談に乗れるのは難しいかもしれないが、親身に相談に乗ってその場で答えることができるものは答えていきたいし、場合によっては、相談者と市役所とを繋ぐ橋渡しのような役割も担っていきたいと考えている。

【川口委員】

「みらいラボ通信」4, 5, 6月号を拝見しました。非常にいいことだと思う。カラー印刷であるが、何部くらい刷って、どういうところに置いているか。

【三幸株式会社：児玉氏】

毎月500部刷っている。木更津市内の各公民館に30部くらい置いている。他にも、木更津市役所市民活動支援課内やセンターにも置いている。はじめて来られたお客様や、センターへ予約に来られたお客様に配布し、その際、何かイベントごとなどあったら「みらいラボ通信」に掲載する旨伝えている。

【白石会長】

障害をお持ちの方からこの施設をみた場合など、もう少し広い意見については、次の「意見交換」に移って話をしたいと思う。

意見交換：

【川口委員】

車椅子でトイレを使用した場合など、施設として利用しづらいか。

【白石会長】

施設の問題については、市の方で予算を付けてやってもらいたい。

【佐藤委員】

障害者用のトイレはあるが、ドアが重い。2階のトイレは全部和式である（障害者には使いづらい）。

【湯谷副会長】

（2階へ行く）階段もきつい。

【白石会長】

今日明日改造してとか、ここは賃貸物件であるので、やたら改造というわけにはいかないと思うが、課題として、施設上、障害をお持ちの方にとっては使用し

づらい。2階はないに等しい。エレベーターがあれば良いが。池田委員は、車椅子を使われているが、何かご不便を感じているか。

【池田委員】

(エレベーターがないと2階の使用は) 厳しい。

【加納委員】

バリアフリーの話になると、どうしても施設の段差等の話になりがちであるが、情報へのアクセシビリティというのを将来的な課題と考えた場合には、いずれは排除すべき問題であると考ええる。例えば、ウェブサイトにしても見れる人もいれば、見れない人もいる。積極的に情報のアクセシビリティに対して取り組む役割をこの施設は担っていると思う。法律の整備も進んでいるので、これもまちづくりの一環として進められればと思う。地域には色々な方がいるので、色々な方に対応できるようにし、それを指定管理者の方だけをお願いするのではなくて、みんなで考えていければいいと思うし、みんなで考える場としてこういう施設があると思っている。

【湯谷副会長】

イベントの周知や団体情報について、今情報の発信として、主としてどういうものがあるか。

【三幸株式会社：児玉氏】

主に、「みらいラボ通信」です。

【湯谷副会長】

他に「広報きさらづ」に、センターについて掲載してもらったりするのはどうか。ちなみに、毎月発行される「広報きさらづ」にイベント情報を載せるスペースを確保してもらって、イベント情報を載せたりなどしてはどうか。また、情報の提供の場として、市役所の市民活動支援課内でもっとセンターに関する情報を提供してみてもどうか。情報発信の主体として、施設管理者だけに任せるのではなくて、市役所側からも発信してはどうか。

【白石会長】

今、湯谷委員からのご意見は、事務局に対しての要望であるが、市の広報媒体(市のホームページ、広報誌も含めて)を指定管理者等も利用できるようにしてはどうかという趣旨と思われる。もちろん、広報媒体の利用は、市民活動支援課

だけでは難しく、担当部署との調整も必要かと思うが、ご検討いただければと思う。

【市民活動支援課：石井課長】

情報の発信については、「広報きさらづ」の他にフェイスブックやホームページ等いくつかの媒体が存在し、「広報きさらづ」については、4月号からリニューアルということで、サイズを変えたりとか、少しでも手に取って読んでもらえるよう画像を増やしたりするなど、いくつか改善を図っているところであるが、(各部署から)掲載をして欲しいという情報が増える一方で、情報を載せる場所(スペース)も取り合いとなっており、市の情報を載せるだけで精一杯という状況である。もし、情報を載せるために画像などをカットしてしまうと、文字だけになってしまい広報誌が読まれなくなってしまいう等、色々と課題はあるが、今日いただいた意見を担当部署に粘り強くお願いし、センターに関する記事も載せてもらえるようにしていきたい。また、市民活動支援課の案内コーナー等を活用して今後もより一層の情報発信の場を提供してみたいというご意見については、現在、「みらいラボ通信」を毎月500部発行してもらっているが、紙媒体だと限度があるので、これからはスマートフォン等の情報媒体を活用し、広く市の内外に発信できるよう三幸と協力して取り組んでいきたい。

【川口委員】

そのような情報について、市政協力員は、年齢的にホームページやSNSで見ている方よりも、回覧文書などで回ってくる情報を見ての方が非常に多い。市政協力員として地域の核となっている人達にセンターでの活動を知ってもらうためにも依然として紙媒体を活用していくのも重要だと思う。また、公民館からも市の情報を得られるので、活用していくと良いのではないかと思う。

【白石会長】

情報については、色んな方に知っていただくための方法が色々あるが、今後どのような方法が良いのか相談していけたらと思う。

【川口委員】

ところで、このパンフレットの作成についてお聞きしたい。

【三幸株式会社：川出副支店長】

パンフレットについては、丁度7月号が完成した。毎月必ず発行している。印刷は、片面だけではなく、必ず見開きで印刷している。

【川口委員】

パンフレットは、カラー印刷で素晴らしい出来であるが、結構費用がかかるのではないか。

【白石会長】

この施設の利用時間について検討したいと思うが、何時まで開館しているか確認したい。

【三幸株式会社：原田センター長】

21時30分までである。

【白石会長】

利用時間について、昼間お仕事をもちたれている方が集まるには、仕事を終えた後になるので、早くて18時くらい、遅くなると19時になってしまう。その後、センターを使用してもあつという間に21時になってしまう。現実の利用で、どのように夜集まって夜活動をしているような団体はどれくらいあるのか。

【三幸株式会社：原田センター長】

会議室に限った利用状況であるが、夜間だけの利用に限ると、5月は、第1会議室の利用は3件、第2会議室は2件。4月だと、第1会議室の利用は6件、第2会議室は2件である。6月になると件数が上がっており、第1会議室が10件、第2会議室は11件である。

【白石会長】

夜に会議ができるということがわかれば使いたい、という利用団体が多いということがわかる。商工会議所は、青年部が会議を行うと思うが、利用状況はどうか。

【鶴岡委員】

会議の時間は遅い。夜19時半に始まり、終了するのが21時30分くらいである。少人数で打合せを行うこともある。

【白石会長】

確かに、昼間お仕事されている方からすれば、どうしても使用に関しては夜になってしまう。長谷川委員は学生であるが、学生であれば、昼でも時間が取れそうであるが、だからといって、必ずしもお昼に時間が取れるとは限らないと思う

が。

【長谷川委員】

もちろん、お昼に打合せや会議などすることはあるが、学生の場合は、お昼には学校の授業が入っていたりすることも多い。その点、センターは、時間も21時30分と遅くまで利用できるだけでなく、土日の利用も可能であり、とても嬉しく思う。会議室の使用についてであるが、そもそも会議室を積極的に使用したいと思うかどうかという点についてお話ししたい。会議室の使用よりも1階を使用した方が使いやすい場合があるのではないかと思うことがある。ワークショップはわりと1階が使えたらいいと思うことがある。三幸側からしたら場合によっては、1階を使って欲しい、または2階を使って欲しいということがあるのではないか。

【三幸株式会社：原田センター長】

内容にもよるが、目的・状況に合わせて使っていただけたらと思う。

【加納委員】

市民活動団体にとって話し合いは、必ずしも構成員全てが集まる必要がなく、数人で話し合えればそれで良いということが多くある。市民活動団体にとって一番足りない場所は、授業をやる・講座をやる・イベントをやる場所である。そのような活動をする場を与えてくれるのであれば、施設の利用率は上がる。総会のような会議で部屋を使うことがあるが、日常的な打合せレベルではなかなか大きな会議室が必要となることがない。その辺のところは、1階と2階との使い分けの話になってくると思うが、今、早急に利用が少ないから（閉館時間について）早く閉めましょうという話ではなく、将来的にこの施設を使って活動することが、この施設の価値を上げていくことにつながると考える。

【白石会長】

団体活動されてる方で、利用時間に関して何かあればご意見をどうぞ。特に意見がなければ、とりあえずは今現在の時間帯でやっていこうと思う。

【湯谷副会長】

三幸の方々の席は、会場の端の方に設けられているので、今度、三幸の方が参加する場合は、委員席の方に席を設けて議論をしていただければと思う。